

り、山崎宿側の下宿には、宿場の目印となる一本松があつたといわれています。

関宿側の上宿には、本陣・脇本陣は決まつた名主が勤め、馬や荷物の取り次ぎや宿泊の差配などを行う問屋場は、地元の名主4家が交代で勤めていましたが、いずれも常設のものではなかつたようです。

中里宿を出た道は、北上し関宿宿に続きます。

#### 4 ゴルフ場に街道の名残が

千葉カントリークラブ川間コース内に、街道の名残を見つけることができました。

現在は、主にコースを管理する道

二川地区には、昭和50年代まで、江戸時代の街道の面影を偲ぶことができる松並木が残っていました。現在は、県道結城野田線沿いに残る大きな2本の赤松と、二川小学校の道路沿いにある赤松が、この場所に松並木があつたことを伝えてくれます。地元の団体では、松並木を復元し

#### 5 往時を偲ぶ「二川」の赤松

路となっていますが、今でも道沿いには樹木が立ち並び、当時の街道を思わせる雰囲気が漂っています。  
※ゴルフ場内のため、コース利用者以外の方の立入はできません

往還3番目の宿場、関宿宿は「関宿藩」の城下町です。関宿城下は「東に台町・南に江戸町・内河岸・元町・内町あり」といわれ、古くから河川を利用した交通と水運の要所として発展してきました。

川沿いの河岸は、物資や旅人を運

ぶ川の港で、水運に携わる人々の生活の場でもありました。

関宿橋を川沿いに北上した江戸川の対岸は、現在の幸手市西関宿ですが、ここには、向河岸・向下河岸という二つの河岸場があり、明治28年までは、関宿町の一部でした。この二つの河岸と、宿場のあつた江戸町の内河岸をあわせて「関宿三河岸」と呼びました。

関宿の河岸場は「お江戸の飛び地」と称されるほどの賑わいをみせていたそうです。

#### 6 市内最後の宿場「関宿」

